

## 呑川レポート 2016-1 2015 年生きものを振り返って

明けましておめでとうございます。

今年も「呑川情報」をお届けいたします。皆さまが「郷土の川・呑川」を愛してくださるようお願いいたします。まず初めに、昨年（2015年）の「呑川の生きもの」がどうであったかを振り返ってみたいと思います。

### 1) ボラの遡上

一昨年（2014年）の「ボラの大量遡上」は、異常とも思えるもの凄さでした。



これは「仲之橋」（右岸は久が原2丁目・左岸は仲池上2丁目）付近の状況ですが、2014年は蒲田・池上地域だけでなく、感潮域を超え、最上流までボラが大量に遡上しました。

ですから・・・



呑川の最上流、「高度処理水」流入口（東工大グラウンド付近）のゴムのカーテンまで、コサギが連日やって来ました。



ここで、コサギは狙をし、大きな口を開けて魚をパクリです。たしかに、魚は最上流までやって来たのです。この勢いは、今年の2015年はどうだったでしょうか・・・？上流側では、フェンス越しに目視出来る魚影は大きく減りました。それでも、コサギは、1週間に1回位は最上流までやって来ていたのですが、

9月半ば以降は確認が出来ていません。昨年10月以降は、コサギは、久が原地域から下流にだけになりました。コサギのエサとなる魚の遡上が減ったのでしょうか・・・？

従来、ボラが大量遡上する時は、とても寒い時が多かった気がします。データとして記録していないので断定は出来ませんが、北風が吹き、海水温が下がったとき、呑川の「高度処理水」は水温が高いため、逃げ込むように呑川に遡上することが考えられます。

ところが、昨今の異常とも言える温暖な状況が続き、そういう動機でボラが遡上することは少なくなったのでしょうか・・・

私の住んでいる地域（石川町）から蒲田迄は、近くはないので、ひんばんにボラが遡上する蒲田付近の状況は判らず、気象との関連もデータが取れないので、正確なことは判りません。

ただ、私を見る限り、上流部にコサギが見えなくなっただけで、昨年2015年も、蒲田・池上地域では、例年通りかなりのボラが遡上しているように見えます。

## 2) 魚の大量死



ここは蒲田の「日本工学院」付近です。

昨年 2015 年もまた、大量の魚が死に、呑川に浮いているのが発見されました。



近づいて見ると、稚魚や幼魚だけでなく、それらに混じって大きなサイズの個体も浮いていました。

蒲田地域の「水質」は、魚が生きていけないほどの悪い状態が続いています。

### 3) 久しぶりのゴイサギ





数年前は、呑川でゴイサギが見られないときはありませんでした。ところが、ここ数年お目に掛からず、どうしたものかと思っていましたら、昨年 2015 年、突如として再び登場です。  
(ここは「仲之橋」の上流側にある段差です。)



それも、ある時は「コサギ」と一緒に、又ある時は「アオサギ」と一緒に遡上する魚を狙っています。

この 2 枚の写真は「夕刻」の雰囲気が出ているのでしょうか・・・実は「ゴイサギ」は夕方から夜に掛けて活発に動きます。昼間に見つけましたが、夕方にもいるだろうかと、再び出掛けて撮影しました。「図鑑」で知識を得るだけで無く、実際に「夜行性」であることを実感するのは楽しいことです。

こういう姿は、2015 年は 11 月いっぱい、1 ヶ月間もの間、連日見ることが出来ました。昨年は、どうも魚の遡上が少ない・・・と思っていまましたが、それは JR 新幹線より上流側だけのことであって、それより下流はたくさんの魚が遡上していたことは間違いありません。

(ゴイサギもアオサギも、たくさんの魚を捕獲する鳥だからです)



さて、「仲之橋」上流側段差に陣取っていたのは、ゴイサギの「幼鳥」でした。全体が「茶色」の羽根で覆われています。

ところが・・・



「池上橋」（「第2京浜国道」に掛かる橋）直下に見られた「ゴイサギ」は違います。「茶色」の羽根はどこにも見られず、違う鳥のように見えますが、これは青と白のコントラストがハッキリした、ゴイサギの「成鳥」なのです。池上の「霊山橋」付近には、この「幼鳥」も「成鳥」も、どちらも並んでいました。

さて、「ゴイサギ」が連日見られるようになると、どうしても魚を捕獲した瞬間を見たくくなります。ところが「夜行性」のせいか、昨年はどうしても撮影出来ませんでした。

4) たくさん現れた「アオサギ」・・・





これはやはり「仲之橋」段差で見た「アオサギ」です。なんとか、漁労に成功した瞬間です。ここで、「アオサギ」の姿をよく見ると、目の後ろに「ハッキリとした黒く太い線」が見られ、首は白く、胴体は灰色がかった白っぽい羽根で覆われています。この特徴を覚えていただいて、次の「アオサギ」の姿を見てみましょう。



これも、同じ「仲之橋」の段差にやって来た「アオサギ」です。この「アオサギ」は、模様がかなり違っています。魚を捕まえたアオサギと違ってこの「アオサギ」は、目のうしろの黒い線はハッキリとせず、首は白くなく灰色で、その灰色は身体全体に広がり、全体的に青灰色なので、いかにも「アオサギ」の名にふさわしいイメージです。実は、この個体はアオサギの「幼鳥」なのです。よく見ると、こんな発見も出来るのです。「ゴイサギ」は11月の1ヶ月程度で見られなくなりましたが、「アオサギ」は11月も、12月も居続け、久が原から池上の領域に6羽もいたときがありました。一度にこんなに沢山の「アオサギ」が現れたのは、昨年2015年が初めてでした。昨年の魚の遡上は、相当なものだったでしょう。

5) 子どもたちを喜ばせたカワセミ



私が呑川に「カワセミ」がいる事をレポートして、すでに9年になります。その間に、年々、カワセミの出現回数や、地域も増えてきて、多くの方に知られるようになったと思います。特に、5月・6月に集中的に行われる小学校の「呑川学習」でも、ウォークのさいに「あっ、カワセミ！」と子どもたちが見つけることが多くなり、「呑川」に強い印象をいただく要因にもなっています。

昨年2015年は、夏期間だけで無く、冬期間でも良く現れてくれました。



これは先月（12月）の写真ですが、カワセミが水面に勢いよく飛び込んだ瞬間です。





飛び込んで、すぐ飛び出してきましたが、残念ながら口には魚がくわえられていません。失敗率は相当なもので、私が成功したのを見るのは、1年に1回位しかありません。まして、その瞬間を撮影出来たのは、数年に1回という有様です。

呑川に「魚」がいる・・・そして「カワセミ」がやって来る・・・それはとてもうれしいことです。

#### 6) 「イソシギ」出現!



ここは「道々橋」(久が原1丁目 - 仲池上1丁目)の真下です。ここに、カルガモやコガモ、オナガガモたちが来ていました。





でも、よく見ると、カモたちの仲間と違う、小さな鳥がウロチョロしているのに気が付きました。



近づいて見ると、なんと「イソシギ」ではありませんか！シギチ（シギやチドリ）の仲間は、主に「呑川河口」でのみ見られました。「キョウジョシギ」などと共に「イソシギ」も比較的良くいます。「河口」に多い、貝類や、昆虫などを食べています。

私が、河口以外で「イソシギ」を見たのは、4年前の2012年、呑川最上流の「工大橋」付近でした。それ以来、上流部ではまったく見られなかったのですが、昨年2015年になって久しぶりに、「久が原」地域に現れたのです。

よく、「あの鳥は、呑川にはいない・・・」などと断定的に言う方がいますが、「見つけられなかった」が正しいことが多いのです。そういう意味で、この4年間、「イソシギ」は上流部には「居なかった」とは断定出来ません。毎年来ていたけれど、「見つけられなかった」のかもしれない。

それにしても、昨年「イソシギ」を見つけたことは、うれしいことのひとつでした。

#### 7) コアジサシ舞う

「呑川河口」で目立つ野鳥に、「イソシギ」の他に「コアジサシ」がいます。河口は「森ヶ崎水再生センター」に近いですし、センター屋上には「リトルターンプロジェクト」が保護活動を進める「コアジサシ営巣地」があります。



ところが、「コアジサシ」の動きは素早く、撮影しようと思っても、動きについて行けず、ピントもぶれぶれで、こんな写真ばかり量産してしまいます。

ところが・・・ようやく・・・



海面に垂直に飛び込み、魚を捕まえて飛翔する「コアジサシ」の姿を撮影出来ました。ただ飛んでいるだけで無く、クチバシに魚がくわえられていて、「コアジサシ」の本領発揮です。これも私にとっては、昨年 of 大切な思い出となりました。

昨年 2015 年には、その他にも、生きものたちは多くの興味深い姿を私たちに見せてくれました。それは、又の機会に追加報告をしたいと思います。

今年（2016年）は、どんな姿を私たちにを見せてくれるでしょう・・・とても楽しみです。

-----（当面の予定）-----

いよいよ、来月から「蒲田図書館・呑川講座」（連続5回+ウォーク）が始まります。

ぜひ、多くの方にご参加いただければと思います。

- ・「呑川の会・定例会」 1/14（木） 13：30 ふれあいはずぬま
- ・「呑川ランドデザイン検討会」 1/15（金） 10：00 消費者生活センター
- ・「蒲田図書館・呑川案内展示」 1/16（土） 蒲田図書館にて呑川講座修了まで
- ・「呑川ネット・定例会」 1/21（木） 10：00 消費者生活センター
- ・「落合水再生センター・訪問」 1/26（火） 12：55 落合水再生センター正門
- ・「蒲田図書館・呑川講座」連続5回講座 毎回14：00 - 16：30  
2/6（土）・2/13（土）・2/20（土）・2/27（土）・3/5（土）  
呑川ウォーク 2/11（祝）  
申し込み先 大田区立蒲田図書館 03-3738-2459
- ・「大田区環境フォーラム」 3/12（土） アプリコにて展示・プレゼン
- ・「洗足区民センター・桜まつり」 3/20（日） 展示・プレゼン
- ・「春の都市河川ウォーク」（仙川） 4/2（土）

-----photo essay by-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com